

様式(細則 5-2)

令和5年7月18日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 芦谷 英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため(視察 研修)を(実施 受講)したので、その結果を報告します。

記

- | | |
|--------|-------------------------------|
| 1、日 時 | 令和5年7月9日(日) 14時～16時30分 |
| 2、研修内容 | チャットGPTって何? |
| 3、研修先 | 松江市(市民活動センター) |
| 4、調査経費 | 交通費 浜田市⇒松江市(自家用車ガソリン代) 3,680円 |
| | (高速料金) 2,280円 |
| | (駐車代金) 200円 |
| | 計 6,160円 |



チャットGPT講演会

令和5年7月18日

- 1 日 時 令和5年7月9日（日）14時～16時30分
- 2 場 所 松江市（市民活動センター）
- 3 内 容 チャットGPT（ChatGPT）って何？ 日本経済新聞記者
チャットGPT（ChatGPT）と対話してみよう！ 大豆生田 崇志

4 概 要

- ① 「チャットGPT」など複数のAIが誰でもインターネットで使えるようになり、これがまさに身近にあり、行政でも議会でも導入が目前に迫っている。どう使うかは使い手次第で、まずは実際につかってみて、どんなことができどんな問題が起きるのか、そしてAI技術を日常生活に、業務にどう役立てるか、これからの模索待ったなしである。
- ② チャットGPTは、文章の作成、企画や脚本の作成などに優れており、文章全体での検索ができるようになり、Web上の膨大なデータを取り込み、参照してユーザーの質問やリクエストに応答したり、会話するごとに学習が深まり、いわば進化するものである。
- ③ 膨大な情報をベースに質問に返答しており、一定の精度は担保され、従来のAIではなし得なかった「会話の成立」を実現し、Web上のさまざまな情報を読み込むが、その精度は完璧には程遠いと指摘できる。提示された情報を鵜呑みにすることなく、不断に事実の確認、機器上の不具合を監視し続ける必要がある。

5 所 感

- ① 生成AIは信頼性の高い記事だけでなく、ネット上の虚実入り混じった情報も学習するため、虚偽や誤りのある文章をつくり出すリスクが残る、情報の出典を明らかにする対策が必要で、日本では生成AIが著作権侵害に当たるかその事例などの論点整理を年内にまとめるとしている。
- ② 日本新聞協会は新聞の記事や写真などが、無断無秩序にAIに利用される懸念が高まり、AIが作成した偽情報や世論誘導情報がネット上で拡散するおそれがあるとしている。やりとりのできる人工知能（AI）と言われ、識者は、話のうまいお調子者、賢いけれど、平気ですそをつくこともある優等生、と指摘する。
- ③ その技術も呼び名もAIを使った自動応答ソフト、そして対話型AIへ、いまでは会話型AIへと変わってきている。読書感想文や課題レポート作成など教育界では文章力のあるお調子者の優等生から力を借りていないかなど、それは教師の判断となり、これまでとは違う場面に立ち、新しい次元の違う世界に入ることになり、教育現場での対応がこれからの課題である。
- ④ 奥州市議会では議論における見落としを、生成AIで補う手法として活用し、チャットGPTで対話、ワードカフェ、討論補助を行うとして一般質問はその議員の専門分野、地域的、政治的な背景などから行われ、得意不得手もあり質問分野に偏りが生じることがあり、これを乗り越え議会で全体化し共有する、議会が束となって首長を執行部を動かす、このような議会全体の連携と合意づくりが必要である。
- ⑤ 先進市のように一般質問調整会議を設置すること、ともすれば質問とすれ違い答弁、建て前に固執する答弁、議会その場だけ答弁、答弁倒れとなることもあり、これまでの質問と答弁をデータベース化すること、事前の調整、事後の検証を行うこと、そのためチャットGPTを活用することも検討する。

—以上—